

3.2.5 植物、動物及び生態系

(1) 陸域生物

(1)-1 陸域植物

ア) 植生

事業実施想定区域及び周辺の現存植生図を図 3.2.5-1 に示す。事業実施想定区域及び周辺の大部分は畑・雑草群落で占められるが、ナガミボチョウジ-リュウキュウガキ群落及びハドノキ-ウラジロエノキ群団といった植生も存在する。

事業実施想定区域においては畑雑草群落が広範囲を占めており、海岸には砂丘植生、モクマオウ群落広がっている。また、内陸部にはハドノキ-ウラジロエノキ群団、ギンネム群落が分布する。

イ) 植物相

宮古諸島の植物相は帰化植物を含めて 134 科 707 種 6 亜種が分布している（「平良市総合博物館展示案内：宮古の自然と文化」（平良市総合博物館、平成 15 年）。固有種や南限種はなく、北限種が 24 種みられる。

ウ) 貴重な植物群落

宮古島市の特定植物群落は全部で 14 件が指定されているが、事業実施想定区域の海岸には前浜のハテルマカズラ群落指定植物群落として指定されている（表 3.2.5-1）、（図 3.2.5-1）。



「第 3 回自然環境保全基礎調査（平成元年）」

図 3.2.5-1 事業実施想定区域付近にある特定植物群落

表 3.2.5-1 特定植物群落一覧

番号	件名	選定基準
1	池間島の湿地植生	D
2	狩俣御嶽周辺の植生	C・E・H
3	島尻のマングローブ林	D
4	北原地域の松並木	F
5	大野山のリュウキュウマツ群落	F
6	飛鳥御嶽のヤブニッケイ群落	E
7	野原岳東斜面の植生	D・H
8	東平安名岬のテンノウメなどの風衝植生	G・H
9	来間島西側海浜の海浜植生	D
10	来間島東海岸の海岸林	H
11	前浜のハテルマカズラ群落	D・H
12	渡眞利御嶽のサキシマスオウノキ群落	B
13	国仲御嶽の植生	E・H
14	白鳥崎のミズガンピ・テンノウメ群落	D・H

選定基準

A:原生林もしくはそれに近い自然林

B:国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C:比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群

D:砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

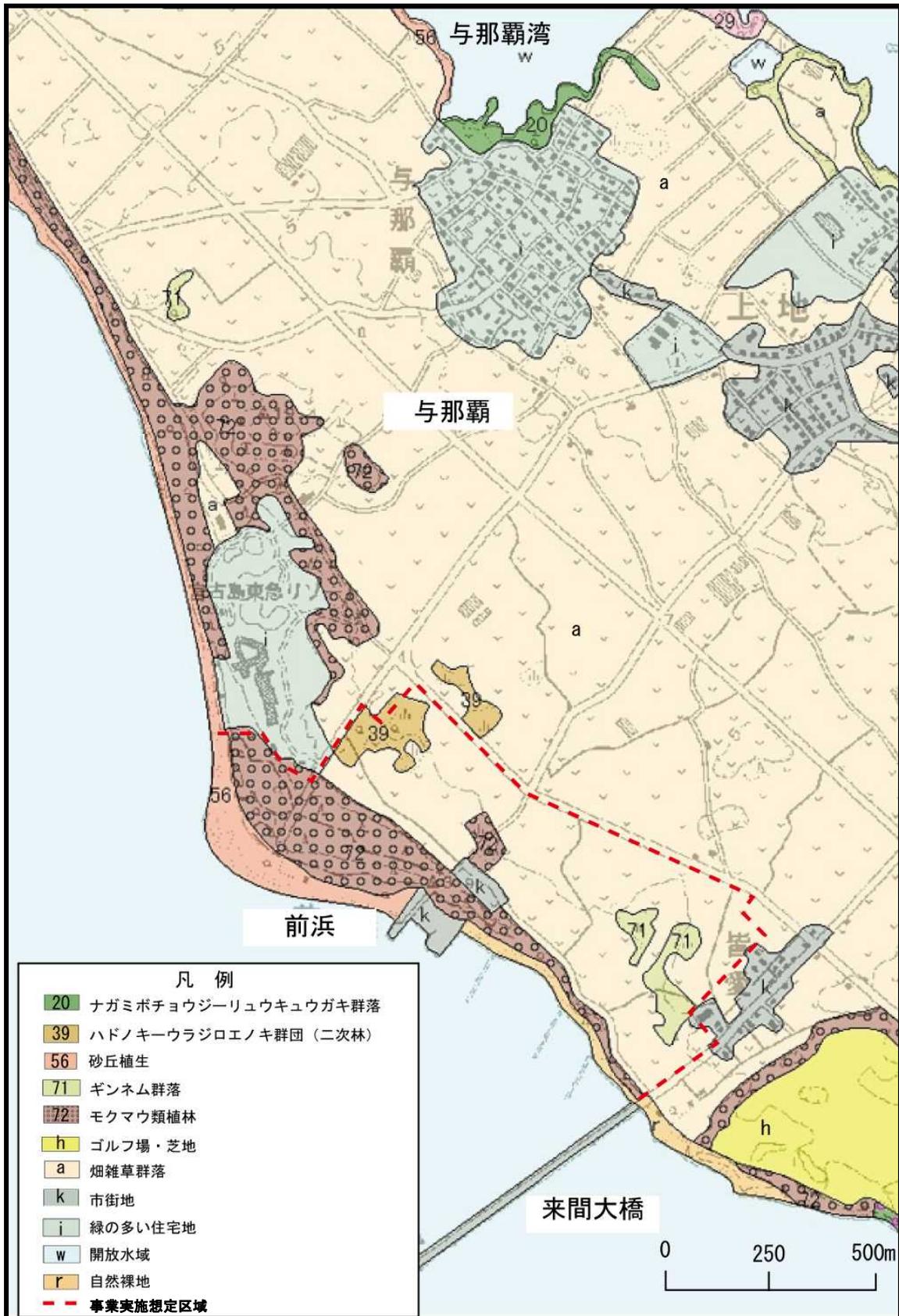
E:郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F:過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G:乱獲その他人為の影響によって・当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H:その他、学術上重要な植物群落または個体群

出典：「第3回自然環境保全基礎調査（環境省、平成元年）」



出典：自然環境保全基礎調査植生調査（環境省自然環境局生物多様性センター）

図 3.2.5-2 事業実施想定区域及び周辺の現存植生図

(1)-2 陸域動物

ア) 動物相

宮古諸島における陸域の動物相は、哺乳類 6 種、鳥類 240 種、両生類 3 種、爬虫類 17 種、昆虫類 364 種が確認されている（表 3.2.5-2）。

表 3.2.5-2 宮古諸島における動物相

分類群		種数
哺乳類	-	6 種
鳥類	夏鳥	11 種
	留鳥	22 種
	冬鳥	55 種
	渡り鳥、迷鳥	152 種
	240 種	
両生類	カエル類	3 種
	3 種	
爬虫類	トカゲ類	3 種
	ヤモリ類	5 種
	へび類	7 種
	17 種	
昆虫類	トンボ類	20 種
	ゴキブリ類	10 種
	カマキリ類	4 種
	バッタ・イナゴ類	17 種
	キリギリス類	10 種
	コオロギ類	9 種
	ナナフシ類	3 種
	セミ類	4 種
	チョウ類	52 種
	ガ類	153 種
	コガネムシ類	13 種
	カミキリムシ類	27 種
	ハチ類	42 種
	364 種	

資料：「平良市総合博物館展示案内：宮古の自然と文化(哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類)」(平良市総合博物館、平成 15 年)

また、事業実施想定区域の北側にある与那覇湾は鳥獣保護区に指定されており、「国指定与那覇湾鳥獣保護区 与那覇湾特別保護地区 指定計画書(平成 23 年 11 月)」によると、哺乳類は 2 目 2 科 2 種が確認されており、鳥類は 11 目 34 科 148 種が確認されている(表 3.2.5-3)。

表 3.2.5-3 (1/3) 与那覇湾特別保護地区動物相

目	科	種	渡りの種別	環境省	沖縄県	天然記念物	国内希少種		
カモ	カモ	ツクシガモ	冬鳥	VU	EN				
		オカヨシガモ	冬鳥						
		ヒドリガモ	冬鳥						
		マガモ	冬鳥						
		カルガモ	留鳥及び冬鳥						
		オナガガモ							
		ハシビロガモ	冬鳥						
		シマアジ	旅鳥						
		コガモ	冬鳥						
		ホシハジロ	冬鳥						
		キンクロハジロ	冬鳥						
		スズガモ							
		カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥				
ハト	ハト	キジバト	迷鳥						
		キンバト	留鳥	EN	EN	国	国内希少		
		ズアカアオバト	留鳥						
ペリカン	グンカンドリ	コグンカンドリ	迷鳥						
	ウ	カワウ	冬鳥						
コウノトリ	サギ	リュウキュウヨシゴイ	留鳥		NT				
		ゴイサギ	留鳥						
		ササゴイ	冬鳥						
		アカガシラサギ	冬鳥						
		アマサギ	冬鳥						
		アオサギ	冬鳥						
		ムラサキサギ	留鳥		VU				
		ダイサギ	迷鳥						
		チュウサギ	冬鳥	NT	NT				
		コサギ	冬鳥						
		クロサギ	留鳥						
		カラシラサギ	迷鳥	NT					
		ツル	トキ	ヘラサギ	迷鳥	DD			
				クロツラヘラサギ	冬鳥	EN	CR		
				ミフウズラ	留鳥				
クイナ	クイナ	シロハラクイナ	留鳥						
		リュウキュウヒクイナ	留鳥		NT				
		バン	留鳥						
		オオバン	冬鳥		NT				
チドリ	チドリ	タゲリ	冬鳥						
		ムナグロ	冬鳥						
		ダイゼン	冬鳥						
		ハジロコチドリ	冬鳥						
		コチドリ	迷鳥						
		シロチドリ	留鳥						
		メダイチドリ	冬鳥						
		オオメダイチドリ	冬鳥						
		セイタカシギ	セイタカシギ	冬鳥		VU	VU		
			ソリハシセイタカシギ	冬鳥					
	シギ		ヤマシギ	冬鳥					
		オオジシギ	旅鳥		NT				
		ハリオシギ	旅鳥						
		チュウジシギ	旅鳥						
		タシギ	冬鳥						
		シベリアオオハシシギ	迷鳥		DD				
		オグロシギ	旅鳥						
オオソリハシシギ	冬鳥								

表 3.2.5-3 (2/3) 与那覇湾特別保護地区動物相

目	科	種	渡りの種別	環境省	沖縄県	天然記念物	国内希少種
		チュウシャクシギ	冬鳥				
		コシャクシギ		EN			国際希少
		ダイシャクシギ	冬鳥				
		ホウロクシギ	冬鳥	VU			
		ツルシギ	冬鳥	VU			
		アカアシシギ	冬鳥	VU	VU		
		コアアシシギ	冬鳥				
		アアシシギ	冬鳥				
		クサシギ	冬鳥				
		タカブシギ	冬鳥	VU			
		キアシシギ	旅鳥				
		ソリハシシギ	旅鳥				
		イソシギ	冬鳥				
		キョウジョシギ	冬鳥				
		オバシギ	旅鳥				
		コオバシギ	旅鳥				
		ミユビシギ	冬鳥				
		ヒメハマシギ	冬鳥				
		トウネン	冬鳥				
		ヨーロッパトウネン	冬鳥				
		オジロトウネン	冬鳥				
		ヒバリシギ	冬鳥				
		ウズラシギ	旅鳥				
		サルハマシギ	旅鳥				
		ハマシギ	旅鳥				
		ヘラシギ	旅鳥	CR			
		キリアイ	迷鳥				
		エリマキシギ	冬鳥				
	タマシギ	タマシギ	留鳥	VU	VU		
	ツバメチドリ	ツバメチドリ	夏鳥	VU	VU		
	カモメ	ミツユビカモメ	迷鳥				
		ユリカモメ	冬鳥				
		ズグロカモメ	冬鳥	VU	VU		
		ウミネコ	冬鳥				
		セグロカモメ					
		ハシブトアジサシ	迷鳥				
		オニアジサシ	迷鳥				
		アジサシ					
		オオアジサシ	夏鳥	VU	VU		
		コアジサシ	夏鳥	VU	VU		国際希少
		ベニアジサシ	夏鳥	VU	NT		
		エリグロアジサシ	夏鳥	VU	NT		
		クロハラアジサシ	夏鳥				
		ハジロクロハラアジサシ	冬鳥				
タカ	タカ	ミサゴ	冬鳥	NT	VU		
		ハチクマ	迷鳥	NT			
		トビ	迷鳥				
		アカハラダカ	旅鳥				
		ツミ	留鳥				
		サシバ	旅鳥、冬鳥	VU			
		ノスリ	迷鳥				
フクロウ	フクロウ	リュウキュウコノハズク	留鳥		NT		
		リュウキュウアオバズク	夏鳥		NT		
	ヤツガシラ	ヤツガシラ	旅鳥		NT		
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥		NT		

表 3.2.5-3 (3/3) 与那覇湾特別保護地区動物相

目	科	種	渡りの種別	環境省	沖縄県	天然記念物	国内希少種	
ブッポウソウ	カワセミ	リュウキュウアカショウビン						
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	冬鳥					
		ハヤブサ	迷鳥	VU	VU		国内希少	
		セーカーハヤブサ						
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	旅鳥	VU				
	カササギヒタキ	リュウキュウサンコウチョウ	夏鳥		DD			
	モズ	モズ	留鳥、迷鳥					
	カラス	ハシブトガラス	迷鳥					
	ツバメ	ツバメ	旅鳥					
		リュウキュウツバメ	留鳥					
		コシアカツバメ	旅鳥					
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥					
	ウグイス	ウグイス	冬鳥					
		メボソムシクイ	旅鳥					
		セッカ	留鳥					
	メジロ	メジロ	冬鳥					
	ムクドリ	ギンムクドリ	迷鳥					
		ムクドリ	冬鳥、留鳥					
		コムクドリ	旅鳥					
		カラムクドリ	旅鳥					
		ホシムクドリ	冬鳥					
	ツグミ	ジョウビタキ	冬鳥					
		トラツグミ	冬鳥					
		シロハラ	冬鳥					
		アカハラ						
		ツグミ	冬鳥					
		インヒヨドリ	留鳥					
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥					
	セキレイ	ツメナガセキレイ	冬鳥					
		キセキレイ	冬鳥					
		ハクセキレイ	冬鳥					
		マミジロタヒバリ	迷鳥					
		コマミジロタヒバリ	迷鳥					
		ビンズイ	迷鳥					
		ムネアカタヒバリ	冬鳥					
	アトリ	マヒワ	冬鳥					
コイカル		迷鳥						
ホオジロ	キマユホオジロ	迷鳥						

イ) 貴重な動物

宮古島市における貴重な動物については、「自然環境の保全に関する指針(宮古・久米島編)」(沖縄県、平成11年3月)に生息が確認または推定される重要種として整理されており、この資料をもとに宮古島市に生息が確認または推定される貴重な種を表3.2.5-4に抽出した。これによると、宮古島市が含まれる圏域区分に生息が確認または推定された貴重な種は、鳥類が46種、爬虫類が5種、魚類が1種であった。

また、事業実施想定区域は表3.2.5-4の圏域区分では「上地」(図3.2.5-3)に当たる。当該地域で確認されている貴重な動物は鳥類が22種、爬虫類が5種、魚類が1種であった。

表 3.2.5-4 (1/2) 宮古島市における貴重な動物一覧

分類	種名	圏域区分						カテゴリー				
		48 池 間 島	49 西 平 安 名 岬	50 福 北	51 平 良	52 伊 良 部 島	53 東 平 安 名 岬	54 上 地	環 境 省 R D B	沖 縄 県 R D B	天 然 記 念 物	種 の 保 存 法
鳥類	コウノトリ					○		○	CR	CR	特天	国内
	キンバト		○		○	○			EN	EN	特天	国内
	ズグロミゾゴイ		○						VU	VU		
	ムラサキサギ	○	○		○	○		○		VU		
	ツクシガモ	○							VU	EN		
	オシドリ					○			DD	EN		
	ミサゴ	○	○		○	○	○	○	NT	VU		
	ハヤブサ	○	○		○	○			VU	VU		国内
	オオクイナ	○	○		○	○		○	EN	VU		国内
	タマシギ		○		○	○		○	VU	VU		
	ツバメチドリ				○	○		○	VU	VU		
	マミジロアジサシ	○	○			○	○			NT		
	カラスバト		○		○				NT	VU	国天	
	リュウキュウオオコノハズク				○				VU	VU		
	リュウキュウキビタキ				○					VU		
	カイツブリ	○	○		○	○		○		NT		
	アカオネツタイチョウ				○				EN	EN		
	シラオネツタイチョウ			○						VU		
	カツオドリ	○	○			○	○			NT		
	サンカノゴイ	○	○			○			EN	EN		
	リュウキュウヨシゴイ	○	○		○	○		○		NT		
	チュウサギ	○	○	○	○	○	○	○	NT	NT		
	クロツラヘラサギ	○			○	○		○	NT	CR		
	マガン	○							NT	NT		
	リュウキュウツミ				○				EN	NT		
	ミフウズラ	○			○			○		NT		
リュウキュウヒクイナ		○		○	○		○		NT			
ツルクイナ		○			○				NT			

表 3.2.5-4 (2/2) 宮古島市における貴重な動物一覧

分類	種名	圏域区分						カテゴリー				
		48 池 間 島	49 西 平 安 名 岬	50 福 北	51 平 良	52 伊 良 部 島	53 東 平 安 名 岬	54 上 地	環 境 省 R D B	沖 縄 県 R D B	天 然 記 念 物	種 の 保 存 法
	オオバン	○	○		○	○		○		NT		
	シロチドリ	○	○		○	○	○	○	VU	NT		
	アカアシギ		○		○	○	○	○	VU	VU		
	セイタカシギ	○	○		○	○	○	○	VU	VU		
	オオアジサシ	○	○		○	○			VU	VU		
	ベニアジサシ	○	○		○	○	○		VU	NT		
	エリグロアジサシ	○	○		○	○	○		VU	NT		
	セグロアジサシ					○	○			NT		
	コアジサシ	○			○	○	○		VU	VU		
	クロアジサシ	○	○			○	○			NT		
	リュウキュウコノハズク		○		○	○				NT		
	ヒメアマツバメ							○		NT		
	カワセミ	○	○		○	○		○		NT		
	ヤツガシラ	○			○	○				NT		
	アカヒゲ		○		○	○		○	VU	NT	国天	国内
	リュウキュウアカショウビン	○	○		○	○		○		NT		
	リュウキュウアオバズク		○		○	○		○		NT		
	リュウキュウサンコウチョウ	○	○	○	○	○		○		DD		
は虫類	ミヤコカゲ	○	○		○	○	○	○	VU	VU		
	キシノウエトカゲ	○	○	○	○	○	○	○	VU	NT	国天	
	サキシマバイカダ		○	○	○		○	○	NT	NT		
	ヒメヘビ		○	○	○	○	○	○				
	ミヤコヒバア		○	○	○	○	○	○	EN	VU		
魚類	トサカハゼ							○	EN	EN		

注) ○:各図幅において生息が確認・推定されていることを示す。

【沖縄県 RDB・環境省 RDB】CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 I B 類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

【天然記念物】特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物

【種の保存法】国内=国内希少野生動植物種

出典:「自然環境の保全に関する指針〔宮古・久米島編〕」(沖縄県環境保健部自然保護課、平成 11 年 3 月)

天然記念物=国、県、市町村により指定された天然記念物(昭和 25 年保率 214 号)

沖縄県 RDB:改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物〔動物総〕—レッドデータ沖縄—

環境省 RDB・RL:「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 2 鳥類」(環境省、平成 26 年)、「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 3 爬虫類・両生類」(環境省、平成 26 年)、「レッドリスト 汽水・淡水魚類」(環境省、平成 19 年)



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
 (承認番号 平14総複、第103号)」

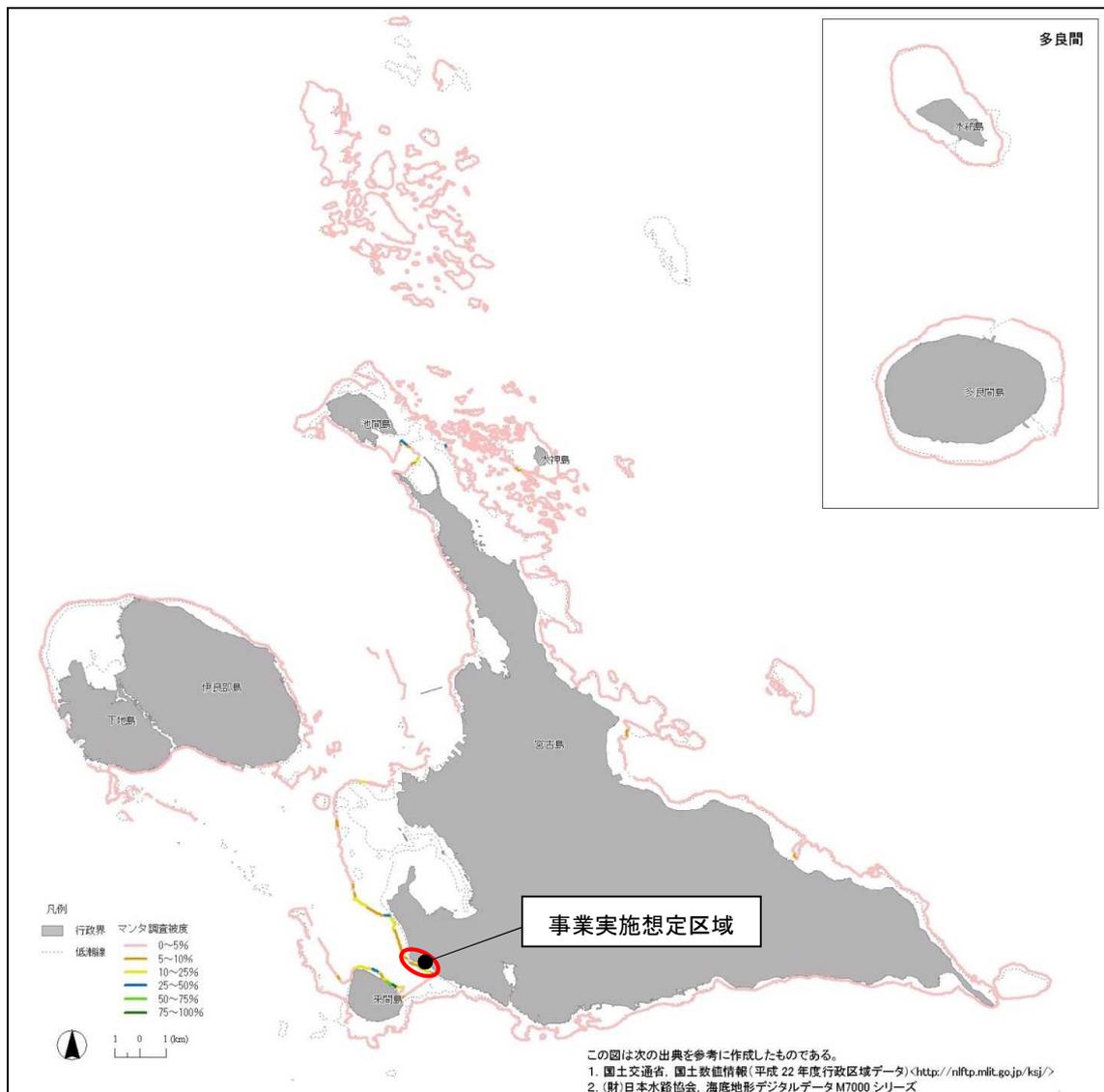
- 凡 例
- | | | | |
|---|-----------------|--|-----------------|
|  | 自然環境の厳正な保護を図る区域 |  | 自然環境の保護・保全を図る区域 |
|  | 自然環境の保全を図る区域 |  | 身近な自然環境の保全を図る区域 |
|  | 緑地環境の創造を図る区域 | | |

図 3.2.5-3 圏域区分図（上地区域）

(2) 海域生物

(2)-1 海域植物

宮古島の西側沿岸は、伊良部島との間の比較的浅いやや内湾的な海が広がり、西側沿岸の南に位置する与那覇湾の沖側には、リュウキュウスガモやベニアマモ、ボウバアマモを主とする県内最大規模の海草藻場(902ha)が形成されている(梶原・松本, 平成16年)。海草類は、池間島と宮古島との間の礁池や来間島と宮古島との間の礁池で確認されているが、その他の地域では被度0~5%(被度評価:非常に低い)であり、このうち事業実施想定区域の地先海域における海草類被度は、5~25%(被度評価:低い~やや低い)の範囲がほとんどである(図3.2.5-4)。宮古地域において確認されている海藻草類は、39科135種類であり、緑藻類が中心である(熊田他, 平成21年)。



出典「平成23年度サンゴ礁資源情報整備事業 沖縄島周辺離島地域、宮古地域、大東地域、波照間地域 報告書」
(沖縄県環境生活部自然保護課, 平成24年3月)

図3.2.5-4 マンタ法により調査された宮古地域における海草類の被度区分

(2)-2 海域動物

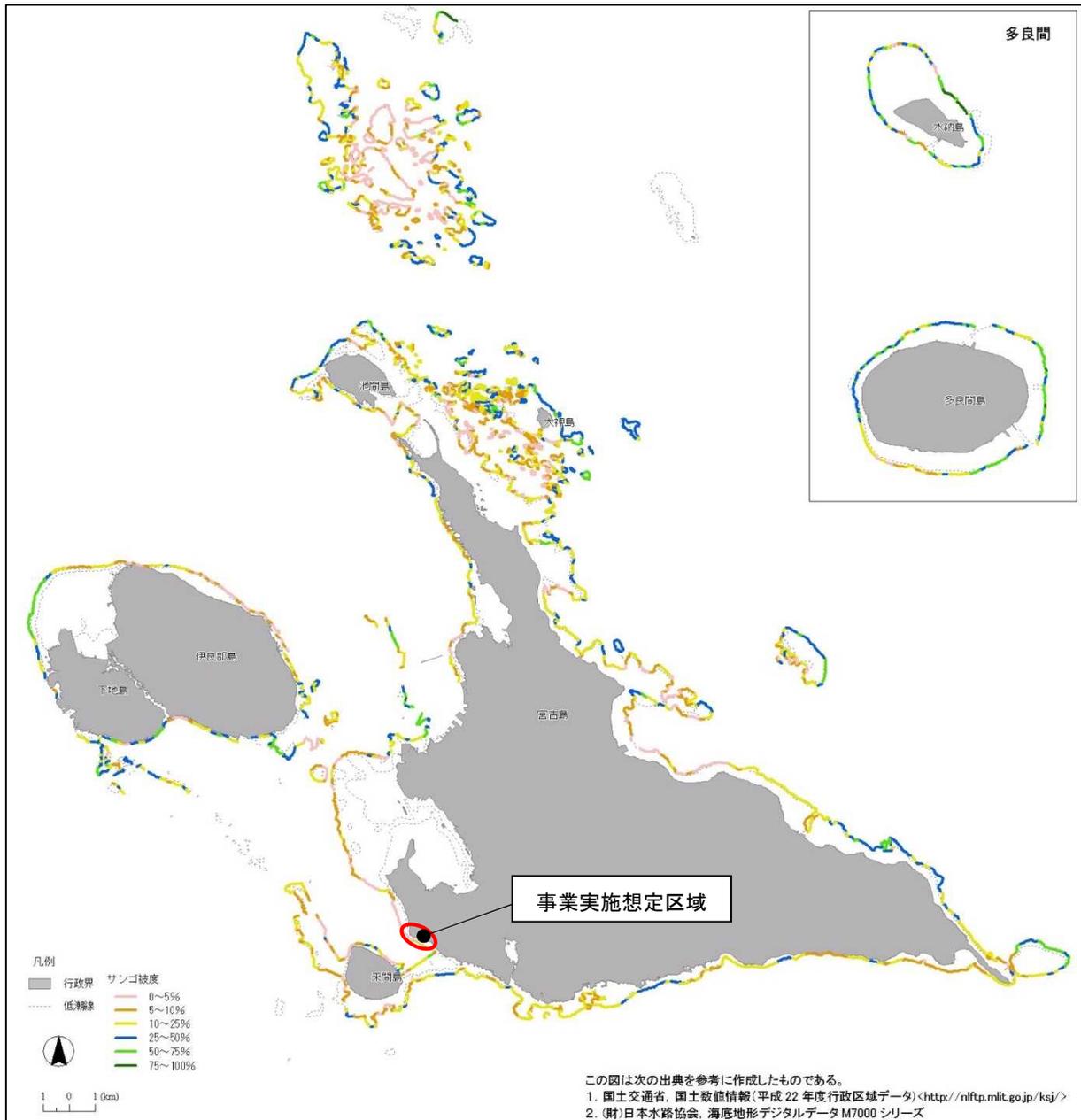
宮古島の北東側沿岸を中心にサンゴ礁が発達し、平瀬尾神崎沖や池間島と大神島周辺には離礁群がみられ、池間島の北方には最大の離礁群(八重干瀬)が広がる。宮古島の南岸は切り立った海岸となっており、海岸線から礁縁までの幅は比較的狭い。西岸は、リーフの発達が弱く、岸から沖に向けて緩やかな斜面が続く。(梶原・松本, 平成16年)。

宮古地域で確認されている造礁サンゴ類は17科302種であり、主に樹枝状・卓状ミドリシや樹枝状ハマサンゴ類が優占する。宮古島南岸では樹枝状コモンサンゴが優占している場所が点在する(梶原・松本, 平成16年)。宮古地域におけるサンゴ被度は、25%未満の地域がほとんどであり、全体的に低いとされている。このうち事業実施想定区域の地先海域では、サンゴ被度0~25%(被度評価:非常に低い~やや低い)の範囲がほとんどであるが、一部50~70%(被度評価:高い)と被度が高い範囲が確認されている(図3.2.5-5)。

宮古地域の砂浜では、アカウミガメやアオウミガメ、タイマイの産卵が確認されており、特に宮古島の東平安名崎周辺と多良間島で砂浜が発達しており、主要な産卵場となっている。事業実施想定区域においても砂浜が形成されているが、ウミガメ類の産卵もしくは産卵跡は確認されていない(沖縄県教育委員会, 平成10年)。

宮古地域の沿岸においては、ハゼ科、ベラ科、スズメダイ科などを中心とした82科863種の魚類の生息が確認されている(Senou et. al, 平成19年)。

宮古地域の干潟域においては、宮古島島尻干潟で106種類、宮古島大浦干潟で85種類、宮古島与那覇湾干潟で119種類、伊良部島佐和田干潟で70種の貝類の生息が確認されている。特に、伊良部島佐和田干潟は宮古諸島において最も攪乱が少なく安定しており、二枚貝類の個体数が豊富で本来の種相が維持されている(名和, 平成20年)。また、宮古島与那覇湾はラムサール条約に登録されており、水鳥の採餌場や休息場となっている。



出典「平成23年度サンゴ礁資源情報整備事業 沖縄島周辺離島地域、宮古地域、大東地域、波照間地域 報告書」
 (沖縄県環境生活部自然保護課, 平成24年3月)

図3.2.5-5 マンタ法により調査された宮古地域における造礁サンゴ類の被度区分

(3) 生態系

事業実施想定区域および周辺における生物の生息環境は、航空写真を基に推察すると、主に樹林地（海岸）、草地・畑地、市街地・人工環境、サンゴ礁、藻場に区分されると考えられる。

これらの環境区分を中心に、そこに生息する生物同士が密接にかかわりあいながら生態系を形成していると考えられ、下に示す文献を参考に、生育・生息する生物種について推察した。

【樹林地（海岸）】

海岸周辺ではモクマオウ類の植林による樹林地が広がっており、内陸部にはハドノキ-ウラジロエノキ群団が分布する。

昆虫類では、セミ類やチョウ類が生息し、それを餌とするサキシマキノボリトカゲやキシノウエトカゲなどの爬虫類やサキシマヌマガエルなどの両生類が生息する。また、森林性のキンバトやサシバなどの渡り鳥、ヤエヤマオオコウモリなどの休息地となっていると考えられる。

【草地・畑地】

海岸周辺ではグンバイヒルガオ等の砂丘植生が分布し、内陸部においてはサトウキビ畑などの耕作地や牧草地、果樹園がみられる。草地に生息する昆虫類及びそれを利用する爬虫类等、さらにそれらを餌とする鳥類が生息すると考えられる。

また、耕作地では、ミフウズラ等の鳥類が餌場や、生息場所として利用していると考えられる。

【市街地・人工環境】

事業実施想定区域には前浜港や周辺に住宅地等がみられる。住宅地周辺の植栽木や草花などが生態系に寄与する。住宅地周辺に植栽された草花を蜜源とするチョウ類等の昆虫類、またそれを餌とする鳥類等が生息すると考えられる。

ヤエヤマオオコウモリは果実食として知られることから、住宅地や果樹園に植栽された植物を餌とすると考えられる。

【サンゴ礁】

公園整備予定地先海域では、塊状・枝状のハマサンゴ類や葉状のコモンサンゴ類を中心としたサンゴ被度 0～25%（被度評価：非常に低い～やや低い）の範囲がほとんどであるが、一部枝状のコモンサンゴ類を中心に 50～70%（被度評価：高い）と被度が高い範囲が確認されている。魚類ではチョウチョウウオ、イラブチャー（ブダイ類）、カハジャー（モンガラカワハギ類）が多く確認されている（沖縄県環境生活部自然保護課，平成 24 年）。

【藻場】

公園整備予定地先海域には、海草類被度 5～25%の海草藻場が分布している（沖縄県環境生活部自然保護課，平成 24 年）。

出典：自然環境保全基礎調査植生調査（環境省自然環境局生物多様性センター

：沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物〔動物総〕—レッドデータ沖縄—

：レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 2 鳥類（環境省、平成 26 年）

：レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 3 爬虫類・両生類（環境省、平成 26 年）

：平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業 沖縄島周辺離島地域、宮古地域、大東地域、波照間地域 報告書（沖縄県環境生活部自然保護課，平成 24 年 3 月）

3.2.6. 景観

(1) 市全体の景観資源の概観

一般的に、景観を形づくる構成要素（景観資源）は、地形、緑、水などの自然的構成要素と、建築物や街なみ、集落などの人文的構成要素、両者が一体となった自然人文構成要素とに大別できる。

ここでは、既往資料から宮古島市の景観資源の概観について整理する。

宮古島市の地勢は、どの島も東側の海岸線から西方向に緩やかに下がる傾斜をなしており、高い山や大きな表層河川がなく、全体的に平坦となっている。しかし宮古島では、南北方向に「石灰岩堤」と呼ばれる帯状の丘陵が何本か走っており、この丘陵上に残る樹林地が陸地の景観を特徴づけている。

一方、海岸線は岩礁、砂浜、干潟など変化に富んでおり、とくに河川からの土砂流入が少ないこともあって、サンゴ礁でできた真っ白な砂浜は宮古島市の象徴的な自然景観となっている。

また池間島の北東海域にある八重干瀬は、大潮の時期だけ海面上に姿を現すサンゴ礁群として知られており、『宮古島市景観計画』（平成23年3月）ではこうしたリーフの景観も含めた保全が謳われている。

こうした一連の資源について、既存資料より、自然景観として岬や砂浜・ビーチ、眺望地点、その他自然環境・地形等（断崖、マングローブ林、巨石、湿原、池、干瀬）を抽出し、都市景観として空港、港湾・漁港、橋、公園、灯台を抽出・整理した。その結果、自然景観では東平安名崎や前浜ビーチなど71件、都市景観では来間大橋や下地空港など43件が挙げられた（表3.2.6-1、図3.2.6-1）。

海に囲まれた宮古島市では、自然景観や都市景観などの観光資源は、岬や砂浜、眺望地点など、海岸部を中心に分布しており、平坦で森林域の少ない内陸側では少ない結果となった。

表 3.2.6-1 宮古島市の主な自然景観および都市景観

分類	番号	名称	種別	所在地域		分類	番号	名称	種別	所在地域		
				沿岸	内陸					沿岸	内陸	
自然景観 (景勝地等)	1	東平安名崎	岬	○		自然景観 (景勝地等)	61	フナウサギバナタ展望台	眺望地点	○		
	2	西平安名崎		○			62	白鳥崎・西海岸公園		○		
	3	世渡崎		○			63	七又海岸	断崖	○		
	4	大崎		○			64	ムイガー断崖		○		
	5	平瀬尾神崎		○			65	島尻マングローブ林	マングローブ林	○		
	6	与那浜崎		○			66	ウブカーマングローブ林		○		
	7	前浜ビーチ		砂浜・ ビーチ	○			67	ヤマトブー大岩	巨岩	○	
	8	保良泉ビーチ			○			68	帯び岩		○	
	9	サニツ浜			○			69	池間湿原	湿原		○
	10	西浜崎の浜			○			70	通り池	池	○	
	11	保良漁港の浜			○			71	八重干瀬	干瀬	○	
	12	吉野海岸	○				合計 71件				67	4
	13	砂山ビーチ	○				都市景観	72	宮古空港	空港		○
	14	新城海岸	○					73	下地島空港			○
	15	高野の浜	○			74		平良港	港湾・漁港	○		
	16	ブリーズベイビーチ	○			75		来間港		○		
	17	真謝の浜	○			76		前浜港		○		
	18	浦底漁港の浜	○			77		長山港		○		
	19	東平安名崎手前の浜	○			78		荷川取漁港		○		
	20	シギラの浜	○			79		久松漁港		○		
	21	パインガマビーチ	○			80		川満漁港		○		
	22	イムギヤーマリンガーデン	○			81		棚根漁港		○		
	23	西の浜	○			82		博愛漁港		○		
	24	狩俣東の浜	○			83		保良漁港		○		
	25	狩俣廃屋の浜	○			84		浦底漁港		○		
	26	狩俣前の浜	○		85	高野漁港		○				
	27	クマザの浜	○		86	真謝漁港	○					
	28	ドイツ文化村の浜	○		87	島尻漁港	○					
	29	アバラギリソートの浜	○		88	狩俣漁港	○					
	30	福山裏の浜	○		89	池間漁港	○					
	31	ムスヌ浜	○		90	大神漁港	○					
	32	長崎浜	○		91	佐良浜漁港	○					
	33	長間浜	○		92	佐和田漁港	○					
	34	アダンユの浜	○		93	来間大橋	橋	○				
	35	アラスヌーピラの浜	○		94	池間大橋		○				
	36	イキズの浜	○		95	伊良部大橋(建設中・H24完成予定)		○				
	37	オハマ	○		96	入江橋		○				
	38	カナバツの浜	○		97	白鳥崎・西海岸公園	公園	○				
	39	トウイヤ	○		98	サバオキ公園		○				
	40	タカマの浜	○		99	牧山公園・展望台			○			
	41	渡口の浜	○		100	カママ嶺公園			○			
	42	長山の浜	○		101	城辺総合公園			○			
	43	佐和田の浜	○		102	大獄城址公園			○			
	44	牧山の浜	○		103	風の公園		○				
	45	中の島ビーチ	○		104	健康ふれあいランド公園		○				
	46	空港沖の浜	○		105	クウラ水辺公園		○				
	47	クウラビーチ	○		106	農村公園		○				
	48	長崎ふれあい遊歩道のビーチ	○		107	サニツ浜ふれあい公園		○				
	49	竜宮城展望台	○		108	トゥリバー海浜公園		○				
	50	竹中山展望公園		○	109	竹中山展望公園			○			
	51	入江湾展望台	○		110	カントリーパーク			○			
	52	比嘉ロードパーク	○		111	皆福地下ダム公園		○				
	53	上比屋ロードパーク		○	112	いこいの森公園		○				
	54	牧山公園・展望台		○	113	平成の森公園		○				
	55	展望所(与渡崎)	○		114	東平安名崎の灯台	灯台	○				
	56	展望スペース(来間大橋)	○		合計 43件				33	10		
	57	荷川取漁港の防波堤	○		出典：宮古島全域ガイドマップ 2006年3月31日，宮古島観光ガイドブック 宮古島市観光商工課 完全保存版・沖繩ビーチ大全 株式会社洋泉社 2005年5月2日 平成6年 みやこのみなと 宮古土木事務所 平成6年3月 伊良部大橋 沖縄県宮古支庁土木建築課 平成21年1月，沖縄離島ドットコムHP							
	58	長崎ふれあい遊歩道	○									
	59	東平安名崎へ行く途中の海	○									
	60	サバオキ公園	○									

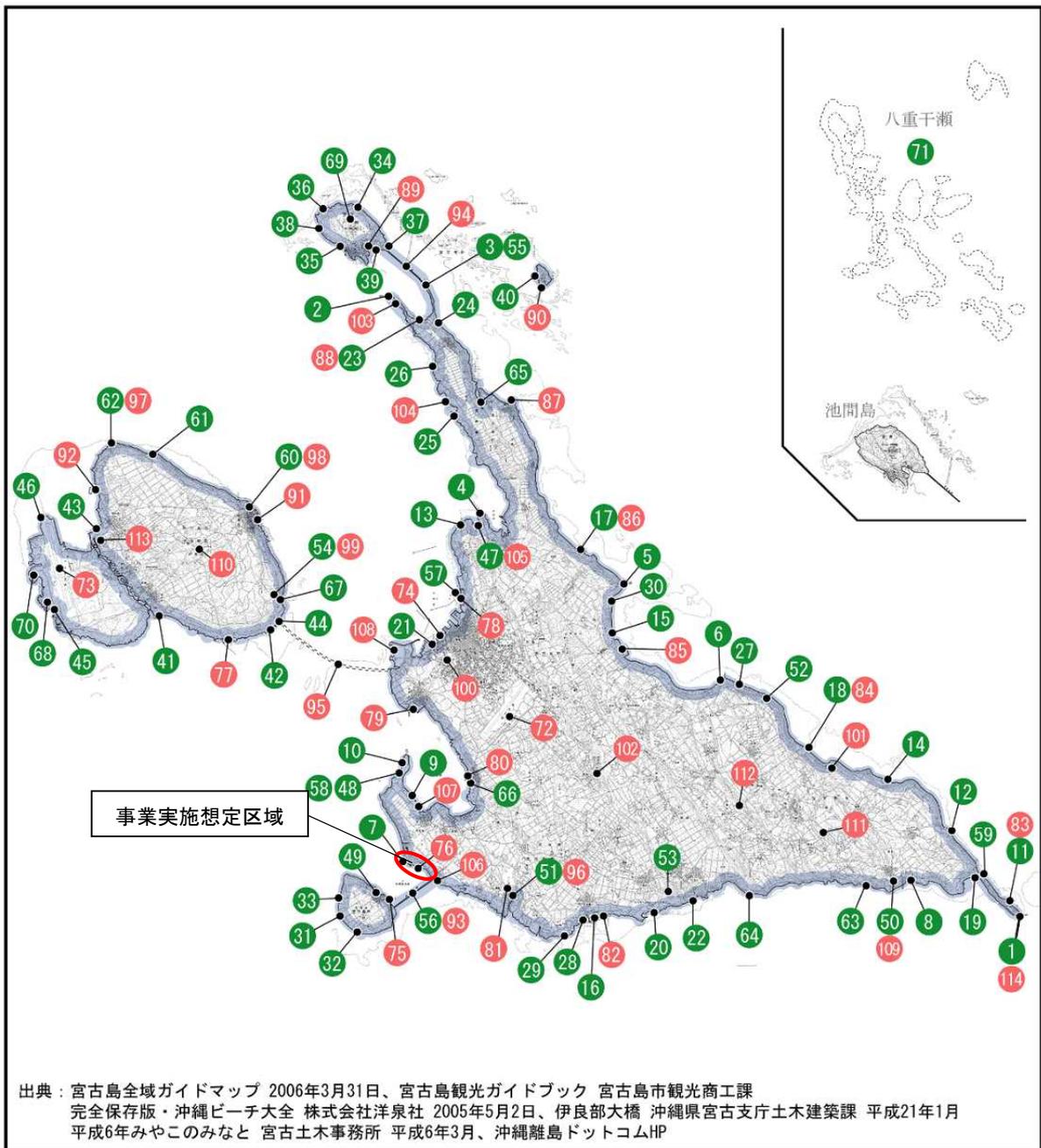


図 3. 2. 6-1 宮古島市の自然景観および都市景観分布状況

また、優れた自然地域として、天然記念物に指定されている地域 23 件、名勝 5 件、特定植物群落 14 件、探鳥地 17 件、指定文化財の湧水・井戸 21 件、同じく指定文化財の洞穴 4 件、サンゴの高密度（被度 50～100%）分布域を抽出した。抽出された 85 件の自然地域等は沿岸域に多く分布している（表 3.2.6-2、図 3.2.6-2）。

これらの自然地域では、貴重な動植物や美しい自然景観をみることができ、宮古島市の豊かな自然に触れられる重要な地域となっている。

表 3.2.6-2 宮古島市の優れた自然地域等

地点名	分類	件数	地点名	分類	件数	
1 植物 狩俣の植物群落	天然記念物(市)	23件	43 池間湿原	探鳥地	17件	
2 島尻のマングローブ林	"		44 島尻マングローブ林			
3 飛鳥御嶽の植物群落	"		45 大野山林			
4 前井の御神木その周辺の植物群落	"		46 東平安名崎			
5 東平安名崎隆起珊瑚礁・海岸風衝植物群落	天然記念物(県)		47 白鳥崎のミズガンピ・テンノウメ群落			
6 大御嶽公園の植物群落	天然記念物(市)		48 フデ岩			
7 好善ミガガマ御嶽の植物群落	"		49 平良市港湾埋立地			
8 国仲御嶽の植物群落	天然記念物(県)		50 高野漁港			
9 イラブナスビ植生地	天然記念物(市)		51 久松漁港			
10 保護区 トマイ御嶽の植物群落	"		52 與那覇湾			
11 サキシマスオウノキ	"		53 入江			
12 前山御嶽の植物群落	"		54 新里のゴルフ場周辺			
13 古墓を抱くアコウ	"		55 パナリ岩礁			
14 来間島断崖の植生	"		56 佐和田海岸付近			
15 雨乞い座のデイゴ	"		57 伊良部島野鳥公園			
16 地質 島尻断崖と海食台	"		58 佐良浜漁港			
17 ツツビスキアブ(腰原嶺洞穴)	"		59 牧山			
18 シマジリクジラ化石	"		60 イスウガー(磯井) 市指定有形民族文化財	湧水・井戸	21件	
19 仲原化石	"		61 クスヌガー(後井) "			
20 ツマグロゼミ生息地	"		62 島尻元島とシナカガー 市指定史跡			
21 下地島の通り池	天然記念物(国)		63 大和井 国指定史跡			
22 大竹中洞穴	天然記念物(市)		64 大川 市指定史跡			
23 動物 宮古馬	天然記念物(県)		65 盛加井 "			
24 東平安名崎	名勝(国)	66 山川ウプカー 市指定有形民族文化財				
25 下地島南、西岩礁海岸地域	名勝(市)	67 野加那泉 "				
26 下地島の通り池	名勝(国)	68 野城泉 市指定史跡				
27 佐和田の浜珊瑚礁・礁湖面	名勝(市)	69 七又のミーマガー 市指定有形民族文化財				
28 白鳥崎岩礁海岸	"	70 金志川泉 "				
29 池間島の湿地	特定植物群落	71 友利のあま井 県指定有形民族文化財	洞穴			4件
30 狩俣御嶽周辺の植生		72 キャーザ井 市指定有形民族文化財				
31 島尻マングローブ林		73 アナ井 市指定史跡				
32 野田山林のリュウキュウマツ群落		74 アマ井 "				
33 大野山林のリュウキュウマツ群落		75 来間川 "				
34 飛鳥御嶽のヤブニッケイ群落		76 アラガー(井) "				
35 野原岳東斜面の植生		77 神里ガー(井) "				
36 東平安名崎のテンノウメなどの風衝植生		78 ダキフガー(井) "				
37 渡真利御嶽のサキシマスオウノキ群落		79 フナハガー(井) "				
38 前浜のハテルマカズラ群落		80 サバウツガー(井) "				
39 来間島東海岸の海岸林		81 ピンザアブ洞穴 市指定史跡				
40 来間島西側海浜の海浜植生		82 天川洞 "				
41 白鳥崎のミズガンピ・テンノウメ群落		83 大竹中洞穴 市指定天然記念物				
42 国仲御嶽の植生		84 伊良部島の縦穴洞穴群 市指定史跡				
		85 造礁サンゴ群集		珊瑚礁	1件	
		合計			85件	

出典 天然記念物、名勝、井戸、湧水：平成18年度 合併市町村地域資源活用事業 宮古島市が誇る宝(文化財)の散策マップ
 宮古島市教育委員会 2007特定植物群落：第3回自然環境保全基礎調査・自然環境情報図(沖縄県)環境庁1989
 探鳥地：改訂版沖縄の野鳥 沖縄野鳥研究会 新星出版株式会社 2010
 きらめく生命 宮古島諸島の野鳥 砂川栄喜 ニライ社 2001
 洞穴：沖縄県地質鉱物緊急実態調査報告書-沖縄県の地形・地質- 沖縄県教育委員会 2000
 サンゴ礁：日本のサンゴ礁 環境省・日本サンゴ礁学会編 財団法人自然環境研究センター 2004

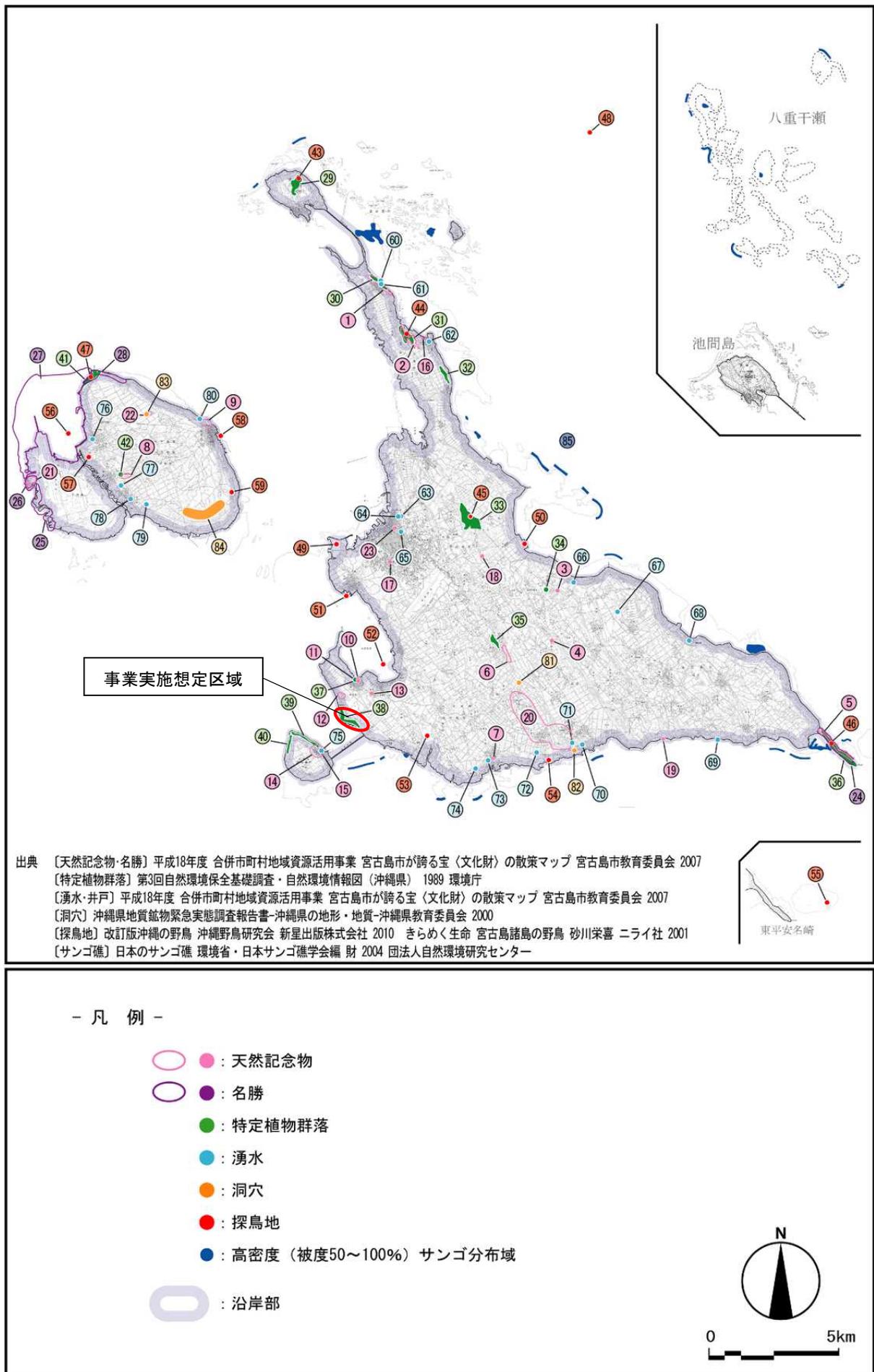


図 3.2.6-2 宮古島市の優れた自然地域等

(2) 事業実施想定区域および隣接地の景観資源の概観

事業実施想定区域の海岸線は「与那覇前浜」「前浜ビーチ」などの名で呼ばれる砂浜が連続している。この砂浜と背後の防潮林が一体となって青空に映える姿は非常に美しく、また目前には来間島や来間大橋が一望でき、海に沈む夕日も眺められるなどの特徴が多くの人に愛されており、旅行社や雑誌社などがおこなう「日本のベストビーチ」アンケート等で上位に来ることが多い。

防潮林は、一部で宮古島市が設置する「ふれあいの前浜海浜広場」として遊歩道（管理用車道）が整備されており、林の中の景観を楽しみながら散策できる。

内陸に入ると、事業実施想定区域の大半はサトウキビ畑とギンネムなどの茂る原野であり、宮古島で一般的に見られる景観となる。

事業実施想定区域端の県道沿いは街路樹があまり生長しておらず、植栽柵等での雑草の繁殖などもあり、道路景観を演出するまでには至っていない。



連続する砂浜



来間島と来間大橋への眺望



畑地や原野が入り交じる風景



街路樹足下の雑草の繁茂

図 3. 2. 6-3 景観の現状

3.2.7. 人と自然とのふれあいの活動の場

(1) 市全体

宮古島市では、豊かな自然環境を活かした景勝地、自然環境を基礎として積み重ねられてきた歴史、文化、人の暮らしなどを活かした観光施設やスポーツ・レクリエーション施設が数多く分布している。

これらについて、既往資料から次のように抽出・整理した(表3.2.7-1、表3.2.7-2、図3.2.7-1)。

表 3.2.7-1 人と自然とのふれあいの活動の場（一覧）

宮古島		伊良部島・下地島	
No.	港湾	No.	港湾
1	島尻漁港	49	佐良浜港
2	平良港	No.	空港
No.	空港	50	下地島空港
3	宮古空港	No.	公園
No.	公園	51	サバオキ公園
4	風の公園	52	平成の森公園
5	健康ふれあいランド公園	No.	その他
6	竹中山展望公園	53	牧山展望台
7	皆福地下ダム公園	54	フナウサギバナタ展望台
8	サニツ浜ふれあい広場	No.	観光・文化施設
No.	その他	55	野鳥観察園
9	比嘉ロードパーク	56	キャンプ村
10	来間大橋	No.	ゴルフ場
11	池間大橋	57	サシバリンクス伊良部
12	竜宮城展望台	No.	海岸・浜・ビーチ
13	伊良部大橋	58	佐和田の浜
No.	観光・文化施設	No.	自然・景勝地等
14	宮古伝統工芸品研究センター	59	通り池
15	うえのドイツ文化村		
16	宮古島市熱帯植物園 宮古島市体験工芸村		
17	宮古島市総合博物館		
18	マティダ市民劇場		
19	宮古馬荷川取牧場		
20	ジロー村楽園		
21	宮古島海宝館		
22	宮古島地下ダム資料館		
23	雪塩製作所		
24	平安名埼灯台		
25	ユートピアファーム宮古島		
26	仲里熱帯果樹園		
27	まいぱり宮古島熱帯果樹園		
28	宮古島海中公園		
No.	文化財・歴史建造物等		
29	千代田カントリークラブ		
30	エメラルドコースゴルフリンクス		
31	シギラベイカントリークラブ		
32	オーシャンリンクス宮古島		
No.	文化財・歴史建造物等		
33	漲水御嶽		
34	久松五勇士顕彰碑		
35	池田疋		
36	上比屋山遺跡		
37	人頭税石		
38	仲宗根豊見親の墓		
No.	海岸・浜・ビーチ		
39	前浜ビーチ		
40	イムギャーマリンガーデン		
41	砂山ビーチ		
42	パイナガマビーチ		
43	トゥリバービーチ		
No.	自然・景勝地等		
44	東平安名埼		
45	西平安名埼		
46	ウプカーマングローブ		
47	島尻マングローブ林		
48	池間湿原		

資料：『宮古圏域観光拠点基本構想検討業務』（沖縄県、平成23年3月）を基に新規開業・閉鎖施設の情報を更新

表 3. 2. 7-2(1) 観光拠点等の概要

宮古島		
No.	港湾	
1	島尻漁港	大神島への定期船が就航する漁港。
2	平良港	伊良部島、多良間島への定期船が就航する港。北から下崎地区、漲水地区、トゥリバー地区の3つの地区からなる。漲水地区トゥリバー地区の間にはパイナガマビーチが位置する。
No.	空港	
3	宮古空港	東京、大阪、沖縄本島、石垣、多良間を結ぶ空港で、ターミナルビル内には、観光案内所や展示コーナー、中庭を設けている。
No.	公園	
4	風の公園	西平安名崎を含んだ公園で、風力発電を3基有している。
5	健康ふれあいランド公園	平成21年10月に完成した公園で、東屋や遊具、レクリエーション広場、トイレ、シャワー室、フラワー迷路、展望台、遊歩道などや大型バスも駐車できる駐車場を完備している。
6	竹中山展望公園	東平安名崎の手前に位置する公園で、平安名崎の灯台やのどかなサトウキビ畑が一望できる展望台を有している。
7	皆福地下ダム公園	宮古島の生活を支える地下ダムのしくみなども学べる公園。
8	サニツ浜ふれあい広場	宮古馬の巨大オブジェが目印の公園で、トイレ、シャワー、更衣室などがある。
No.	その他	
9	比嘉ロードパーク	外周道路の中でも最高地点にある休憩所で、ここからは東シナ海の雄大な景色を眺めることが出来る。また左手遠方には神の島とうたわれる大神島も望める。
10	来間大橋	宮古本島と来間島を結ぶ離島架橋で、全長は1690m。
11	池間大橋	宮古本島と池間島を結ぶ離島架橋で、全長は1425m。
12	竜宮城展望台	来間島の高台にある竜宮城をイメージした3階建ての展望台。正面には前浜ビーチ、左右には伊良部島や来間大橋といった素晴らしい景色が広がっている。
13	伊良部大橋	宮古本島と伊良部島を結ぶ離島架橋で、全長は6500m。 平成27年1月に開通された。
No.	観光・文化施設	
14	宮古伝統工芸品研究センター	宮古上布の研究所で、織物体験の他、展示、宮古上布の小物類や宮古織の品々の販売も行っている。
15	うえのドイツ文化村	宮古島とドイツ村の友好の証として、建設された施設。ホテルの博愛パレス館、ドイツのおもちゃを展示するキンダーハウス、マルクスブルク城を再現した博愛記念館、ホテルプリーズベイマリーナなどが併設されている。

16	宮古島市熱帯植物園 宮古島市体験工芸村	12万坪もある広大な敷地の中には約1600種の亜熱帯の樹木が生い茂り1年中カラフルな花が咲いている。また、園内には約400mのデイト並木があり、春先には真っ赤なデイトの花のトンネルができる。 体験工芸村では、木工芸、陶芸、貝細工、郷土料理、宮古馬乗馬体験など可能で、体験プログラムを通して宮古島の自然、文化、歴史などを知ってもらうことを目的としている。
17	宮古島市総合博物館	宮古島の自然と歴史風土に関する資料を展示しており、動植物に関する資料や、祭りや伝統芸能など独特の風習を持つ宮古島の文化、歴史などをビデオや人形、ジオラマなどで紹介している。
18	マティダ市民劇場	宮古圏域の文化づくりの拠点として、歌、舞踊、演劇、演奏、映画、講演など多くの催し物が行われている。
19	宮古馬荷川取牧場	6000坪の原野に在来種の宮古馬が飼育されており、乗馬体験が可能。
20	ジロー村楽園	ダチョウ、クジャクなどの動物が飼育している他、薬草園や熱帯のフルーツを栽培している果樹園も併設されている。売店では園内で栽培された果実を使ったソフトクリームやアイスクリームなどの販売も行っている。
21	宮古島海宝館	世界各地から集められた6200種、26000点の貝が展示されている貝の博物館。館内には貝細工コーナーがあり、自分だけのオリジナルアクセサリを作ることも出来る。また、レストラン、ショップも併設されている。
22	宮古島地下ダム資料館	宮古島特有の石灰岩(帯水層)と島尻層群(不透水層)の農業用水としての利用について、案内板や音声案内などで見学できるようになっており、周辺は公園として整備され、地元の憩いの場となっている。
23	雪塩製作所	池間島、池間大橋、西平安名崎、宮古馬牧場なども近隣にあり、観光がてら気軽に立ち寄れる。併設のショップでは塩の販売、製塩工程の説明やギネス認定証の展示のほか、雪塩と水道水でできた「疑以海水」の中を泳ぐ海水魚も見られる。
24	平安名崎灯台	東平安名崎周辺は暗礁が散在するため、地元漁民や大型貨物船の遭難が多く、難所とされていたが、昭和42年3月27日に東平安名崎灯台が設置された。97段の螺旋階段を登りきると東平安名崎の雄大な景色が眺められる。
25	ユートピアファーム宮古島	50品種以上のブーケンベリアが植育されており、パーラー内では、園内で収穫したフルーツを加工したアイスやシャーベットを販売している。
26	仲里熱帯果樹園	マンゴー、スターフルーツ、パパイヤ、シークァーサー、グァバなど園内で栽培されているフルーツを搾りたてのジュースとして味わうことができる。
27	まいばり宮古島熱帯果樹園	非日常空間を体験できる熱帯果樹園で、園内の珍しい植物、熱帯果樹などの中をカートで遊覧しながら、ガイドが案内してくれる。フルーツをその場でブレンドするアイスクリーム、ジュースも販売している。
28	宮古島海中公園	海底約4mのところに24枚の亚克力パネルが設置されており、海中観察ができる。また、2m四方のタッチプールが4つあり、普段着のまま豊かな海洋資源とふれあう事が出来る。
No.	ゴルフ場	
29	千代田カントリークラブ	自然の丘陵をそのまま残して造られた変化に富んだゴルフ場で、全ホールドライバーショットが可能。

30	エメラルドコースゴルフリンクス	マイパマビーチに隣接しており、海越えホールが名物のゴルフコース。
31	シギラベイカントリークラブ	日本で唯一、すべてのホールから海が見える本格派リゾートコース。
32	オーシャンリンクス宮古島	東平安名崎を一望できるレストランを敷設しているゴルフコース。
No.	文化財・歴史建造物等	
33	漲水御嶽	宮古島創世の神話並びに人蛇婚説話等にいろどられ、古代宮古人の源流をさぐる上からも貴重な御嶽。
34	久松五勇士顕彰碑	「バルチック艦隊 発見」の方を東郷平八郎大将率いる連合艦隊に打電した5人の壮挙を讃えて昭和41年に建立された顕彰碑。
35	池田砦	琉球王国時代、平良から久貝・松原、川満を経て洲鎌、上地、与那覇へ通ずる主要道路の一部であった下地砦道と共に架設されたといわれている。
36	上比屋山遺跡	高さ40mの琉球石灰岩丘陵にある14～15世紀の遺跡で、南側の砂川元島遺跡とあわせて広い集落跡を形成している。また、跡内には、10ヶ所余りの御嶽がある。
37	人頭税石	高さ1.43mの石柱で、この石の高さ以上の背丈になると、税が課せられるという伝承がある。別名賦計り石とも呼ばれる。
No.	文化財・歴史建造物等	
38	仲宗根豊見親の墓	15世紀末から16世紀初にかけて、宮古島の支配者として君臨した仲宗根豊見親が、父、真誉の子(まゆのふあ)豊見親の霊を弔うために、築造したといわれている墳墓。
No.	海岸・浜・ビーチ	
39	前浜ビーチ	「東洋一の白い砂浜」がキャッチフレーズの宮古島を代表する美しいビーチ。施設も整備されていてジェットスキーをはじめさまざまなマリンスポーツを楽しむことができる。
40	イムギヤーマリンガーデン	光と水と緑にあふれたまちを目指して整備されたテーマパークで、美しい海岸線と入江などの自然景観を利用した遊歩道や多目的広場などの施設があります。
41	砂山ビーチ	隆起珊瑚礁でできた洞穴と白い砂浜に青い海、ガイドブックでも必ず掲載されているほどの代表的なビーチ。
42	パイナガマビーチ	市内中心部に位置し、市民の憩いのビーチとして人気がある。また夏場にはハブクラゲの防止ネットも整備されるため、子供連れでも安心して遊ぶことができる。
43	トゥリバービーチ	「海辺のユニバーサルデザイン大賞」を受賞した、コースタルリゾート地区にある人工ビーチで、ビーチの周りではシーカヤックなども楽しめる。また、毎年ロックフェスティバルが開かれている。西側には伊良部島、正面には伊良部大橋(工事中)が望める。
No.	自然・景勝地等	
44	東平安名崎	宮古島の最東端にある約2kmの美しい岬。太平洋と東シナ海を一望できる雄大な景色は日本都市公園百景にも選ばれている。また、整備された遊歩道の周辺では県の天然記念物である天ノ梅やテッポウユリなど季節ごとにさまざまな花が植生している。
45	西平安名崎	宮古本島の最西端であるとともに最北端にもあたる岬。伊良部島と池間島・池間大橋を望み、東平安名崎とは対照的な穏やかな景色が広がっている。まあ、エネトピア構想の一環である風力発電の風車が立ち並び、その景色は西平安名崎のシンボルとなっている。

46	アップカームングローブ	下地町川満漁港内の大川(アップカー)湧水にある遊歩道。長さが390mある木製の遊歩道をはじめ展望デッキや敷石歩道、植物や生物を紹介する案内板などが整備され「海の森」とも呼ばれるマングローブ林の観察が気軽にできるようになっている。
47	島尻マングローブ林	奥行き約1kmの入り江(カタラズ)に発達している宮古諸島でも最大規模の群生。2002年9月に島尻橋(スマジィーバシ)と遊歩道が完成して気軽に見学できるようになった。
48	池間湿原	池間島の真ん中にある沖縄県内でも最大の湿原。もともとは海と繋がっていたが、昭和の初め頃に入口が埋め立てられ、淡水化が進み今の湿原になった。1年を通じてたくさんの野鳥が飛来するため、バードウォッチングが楽しめる場所になっている。

表 3. 2. 7-2(2) 観光拠点等の概要

伊良部島・下地島		
No.	港湾	
49	佐良浜港	伊良部島・下地島の玄関口となる港。宮古島の平良港から高速艇とフェリーで行くことができ、15～20分で行くことができる。
No.	空港	
50	下地島空港	昭和54年7月に供用開始し、昭和55年11月からは航空会社によるパイロットの本格的な訓練などを開始した。また、同年11月から南西空港の定期便(YS-11型機)が就航したが、利用客が少ないことから平成6年7月に運休止、現在に至っている。
No.	公園	
51	サバオキ公園	「サバ沖井戸(サバウツガー)」の入口にある公園で、春から初夏にかけて、真っ白なユリが咲き乱れる。
52	平成の森公園	いらぶ観光協会主催のロマン海道・伊良部マラソンのスタート地点であり、きれいに整備された芝生が広がる。また、県の天然記念物であるサシバをかたどった遊具などがある。
No.	その他	
53	牧山展望台	渡り島のサシバをイメージした白い展望台。伊良部島の南東に位置し、島内でも一番高いところにあるため、ここからは宮古本島をはじめ池間島・来間島など、雄大な景色を望めることができる。
54	フナウサギバナタ展望台	サシバのオブジェが印象的な展望台。フナウサギバナタ(バンタ)とは「船を見送る岬」という意味で、まさに船の往来を見下ろすことができる展望台。
No.	観光・文化施設	
55	野鳥観察園	海辺の鳥やサシバの渡りを観察できる。
56	キャンプ村	伊良部島と運河でつながる下地島にあるキャンプ場。宮古島市が民間に委託して管理している。
No.	ゴルフ場	
57	サシバリックス伊良部	下地空港の飛行場付近の森を利用してできたゴルフ場。
No.	海岸・浜・ビーチ	
58	佐和田の浜	平成8年には「日本の渚100選」にも選ばれた浜で、伝統漁法の魚垣跡もみられる。
No.	自然・景勝地等	
59	通り池	人魚伝説の残る神秘的な池で、県の天然記念物に指定されている。大小2つからなる池はそれぞれ直径が75mと55m。深さは45m、25mもあり、水中では1つになっていて外洋ともつながっている。

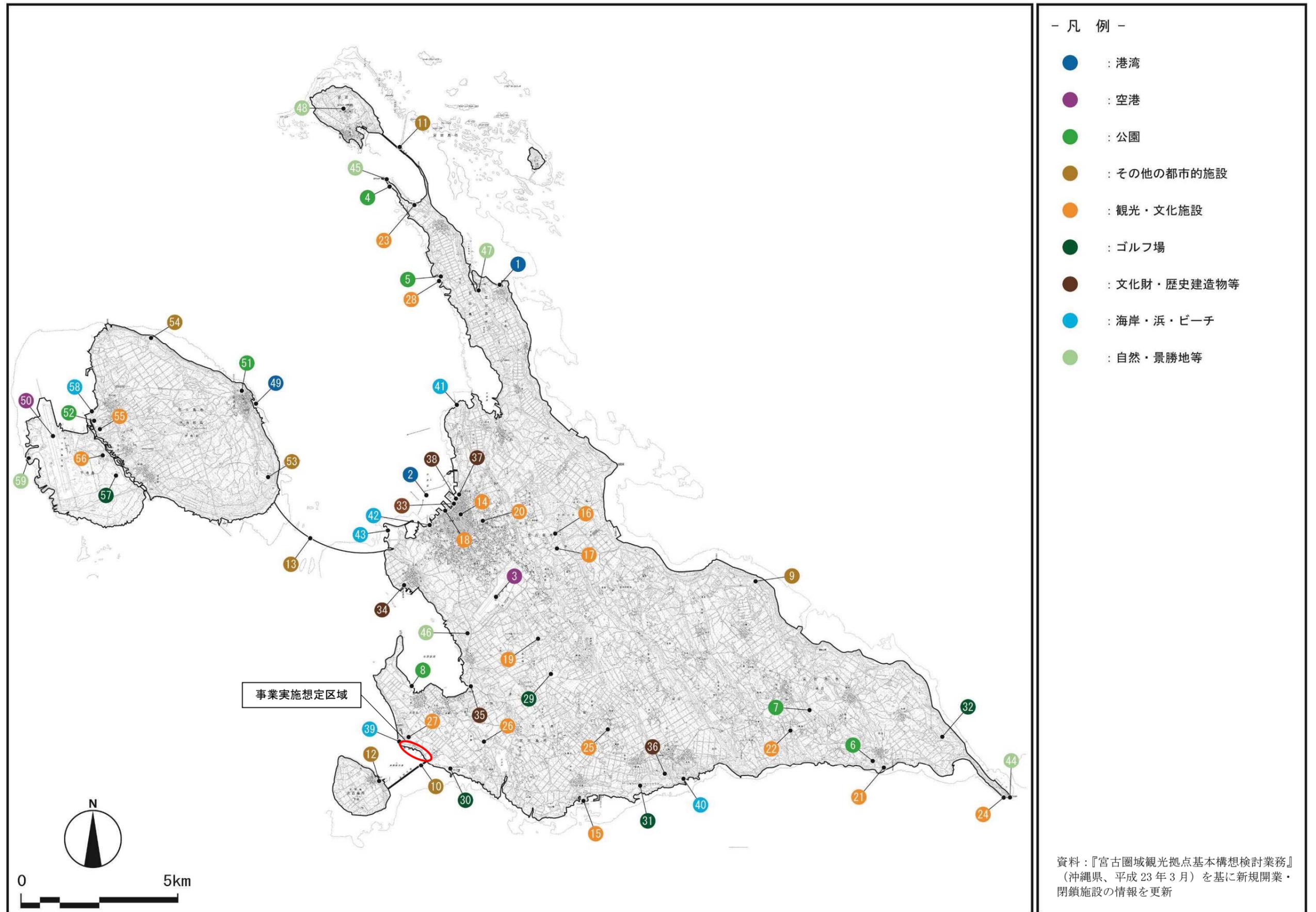


図 3.2.7-1 観光拠点等分布図

(2) 事業実施想定区域

先に整理したもののほかに、事業実施想定区域および隣接地にある人と自然とのふれあい活動の場としては、表 3.2.7-3 の 3 施設が挙げられる。

表 3.2.7-3 人と自然とのふれあい活動の場

	名称	概要
ア	宮古島市ふれあいの前浜海浜広場 (前項で示した「39 前浜ビーチ」の一部)	ウィンディまいばまを中心とするマリンレジャーサービス施設および広場、散策路等。市施設
イ	来間前浜港前浜地区 (前項で示した「39 前浜ビーチ」の一部)	来間大橋開通前まで使われていた港湾
ウ	宮古島熱帯果樹園まいばり	民間の観光果樹園

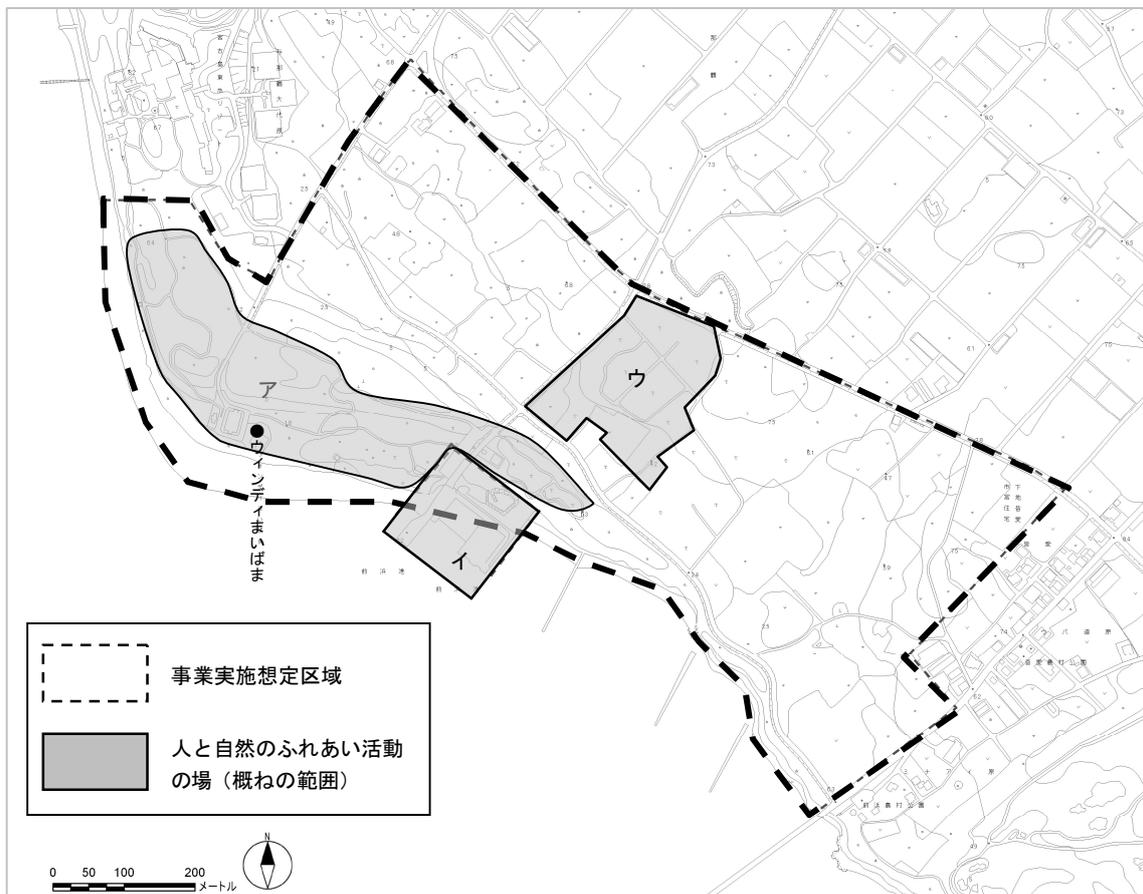


図 3.2.7-2 人と自然とのふれあい活動の場位置図

ア) 宮古島市ふれあいの前浜海浜広場

宮古島市によって整備されたマリンレジャー施設および広場等である（図 3.2.7-3）。

拠点施設である「ウィンディまいばま」はRC造2階建、260㎡の建物で、マリンレジャーサービスや飲食施設として利用されている。建物としてはほかに、東西2カ所に各65㎡程度のトイレ・シャワー施設がある。

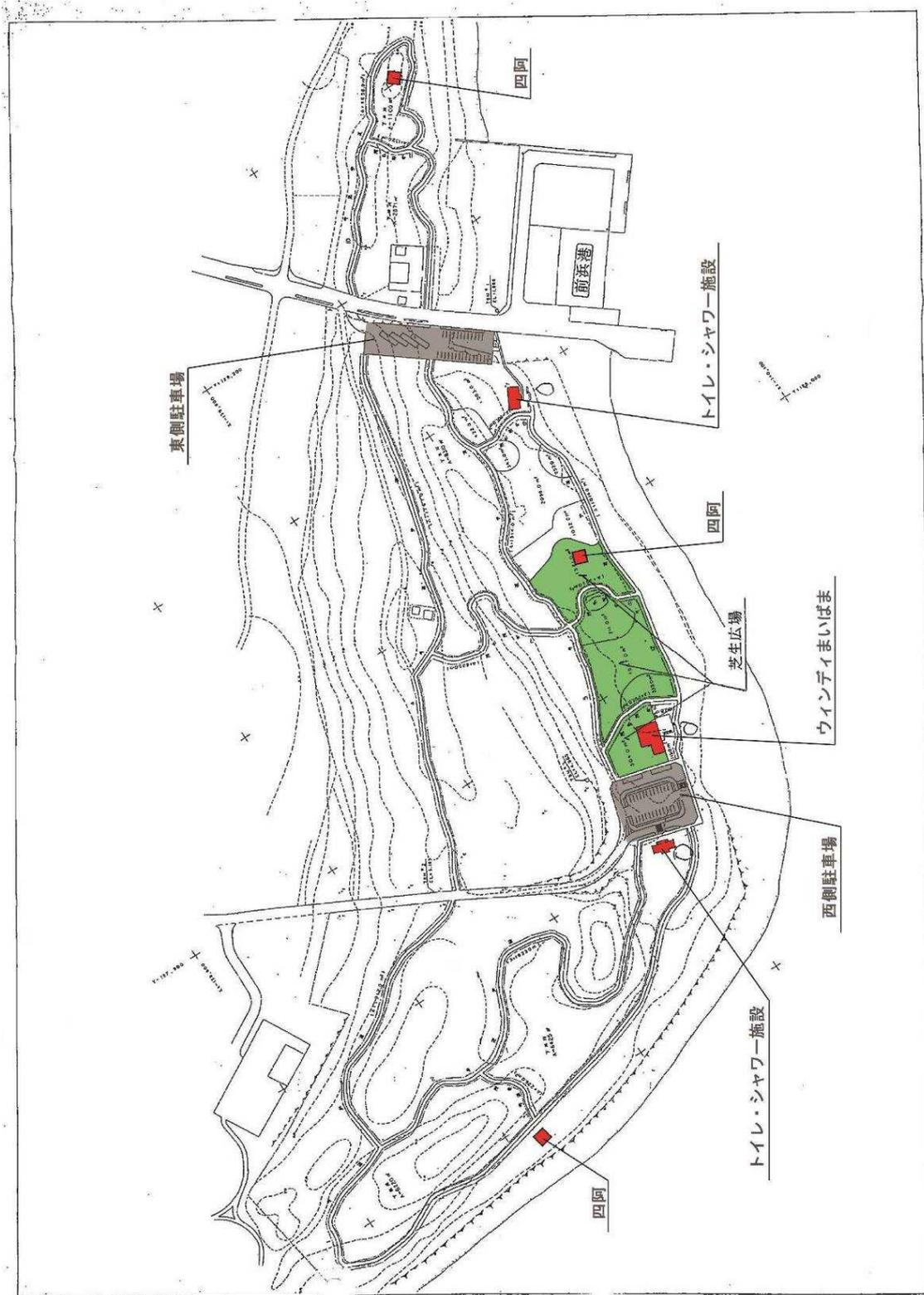
このほか、駐車場も2カ所あり、「ウィンディまいばま」に隣接する西側駐車場には乗用車38台と大型バス2台が、前浜港近くの東側駐車場には乗用車26台と大型バス4台が駐車可能である。区域の中央部分は芝生広場として整備されているが、砂浜の浸食が進んでいる。また保安林の中に遊歩道を整備しており、散策などを楽しめるようになっている。

管理は民間の指定管理者によって行われており、施設は冬期には閉鎖されている。駐車場やシャワーの利用料金は無料である。



上左：ウィンディまいばま
上右：駐車場、トイレなど
下左：保安林内の遊歩道

写真 3.2.7-1 当該施設



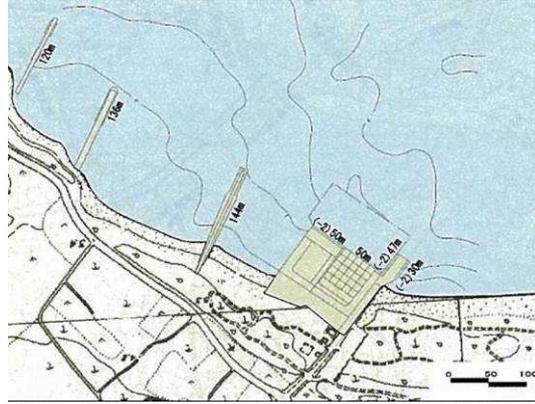
出典：宮古島市ふれあいの前浜海浜広場施設管理運営仕様書（宮古島市）

図 3.2.7-3 宮古島市ふれあいの前浜海浜広場

イ) 来間前浜港前浜地区

県が管理する地方港湾であり、対岸の来間島と結ぶ定期航路のための港湾として昭和 47 年に整備されたが、平成 7 年の来間大橋の開通に伴い航路が廃止され、現在は観光遊覧船やプレジャーボートが利用している。

施設は、栈橋と物揚場及び斜路式物揚場、その背後の緑地からなっている。



上：来間・前浜港概観

下：揚場に置かれたプレジャーボート

出典：来間・前浜港(前浜地区)概要（沖縄県）

写真 3.2.7-2 当該施設

ウ) 宮古島熱帯果樹園まいぱり

民間事業者が設置・営業している観光果樹園である。

約 6ha の敷地に熱帯果樹林や花木園を設け、この中をガイド付きのカートで巡るトロピカルガイドツアーをセールスポイントとした施設で、カフェや物販を行うビジターセンターと、県の天然記念物である宮古馬とふれあえる施設もある(図 3.2.7-3)。

カートでのツアーを含む入場料は 1,200 円である。



ビジターセンター



園内のカート道



資料：まいぱりパンフレット

図 3.2.7-4 宮古島熱帯果樹園まいぱり施設配置図